



「はがき」展  
同時開催

はんさつ まつさかはがき  
**藩札と松坂羽書**

平成26年

4月1日(火)から6月29日(日)まで



〒637-0016 奈良県五條市近内町526

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人・NPO法人うちのの館(やかた)

[info@uchinono-yakata.com](mailto:info@uchinono-yakata.com)

<http://www.uchinono-yakata.com>

☎とFAX 0747(22)4013

## 登録有形文化財「藤岡家住宅」夏の展示・II（「はがき」展 同時開催）

「藩札と松坂羽書（はがき）」

会期：平成26年4月1日（火）から平成26年6月29日（日）まで

会場：藤岡家住宅・展示室

江戸時代には、金属貨幣である金貨・銀貨・銭貨とは別に「藩札」と称される紙幣が流通していました。特に銀遣い経済地域である西国の諸大名を中心として、多くの藩が藩札を発行しています。発行の目的は、領内の貨幣の不足を補い、通貨量の調整機能を担わせることでしたが、藩札の運用が行き詰った場合に、藩札の兌換を巡る取り付け騒ぎや一揆、打ちこわしも発生しました。初期のころは、藩自身が藩札会所などを設けて藩札の発行を行っていましたが、後には、富裕な商人が藩札の札元となって発行を行い、その商人の信用によって藩札が流通したこともありました。藩札は、廃藩置県（明治4年・1871年）による「藩札整理」（新貨との交換）によって消滅するまで、広く流通しました

藤岡家所蔵の藩札は19枚。その内18枚は和州柳本藩によって天保9年（1838年）戊戌8月に発行されたものです。文政13年（1830年）、火事により柳本屋敷（奈良県天理市）が全焼し、それによる財政難を補うべく第11代藩主織田信陽（おだのぶあきら）によって大規模な財政改革が実行されている時期の藩札です。銀一もんめ（匁）と記され、片面には大黒様と寅の図。もう片面には馬に乗って弓をつがえ、数本の矢を背負った武将の姿が描かれています。別の1枚は和州葛上郡（かつらぎのかみのおおり・現在の奈良県御所市）で慶応2年（1867年）に発行されたものです。「銀壹匁 この手形をもって引き替えあい渡し申すべくそうろう」と記され、札元は智村三次郎かと見えますが、姓の部分の文字が薄れています。

残る1枚には「松坂羽書」の表記が2箇所に見られます。藩札が各藩で発行される以前、伊勢や大和で、私札（民間が発行した紙幣の1種）「羽書」が発行されていました。お伊勢さんの門前町、伊勢山田で発行した山田羽書は現存する最古の紙幣と言われていますが、江戸幕府発行の丁銀との引き換えを約束した兌換性を有していました。山田羽書の影響を受けて、宇治・射和・松坂・丹生・中万・白子・一身田など伊勢各地においても羽書が発行されるようになります。「羽書株仲間」と呼ばれる株仲間も結成されて最盛期には39組404名で構成されました。藤岡家所蔵の松坂羽書には片面に大黒様、片面に田植えの図が描かれています。

柳本藩の藩札を所蔵していたので、柳本藩の祖、織田有楽斎（織田信益）の所蔵していた茶碗「有楽」を描いた東洋画「茶盃 有楽」（住谷盤根画）を併せて展示します。藤岡家の家紋は五瓜に唐花紋ですが、織田唐花と表記されている資料もあります。関ヶ原の戦いの落ち武者であったと地域の伝承にはあります。



登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人 NPO法人うちの館（やかた）  
開館・9時～16時（月曜日休館、月曜が祝日のときは開館して翌日休館）

大人（高校生以上）300円・小人200円・6歳以下は無料

〒637-0016 奈良県五條市近内町526 ☎とFAX0747（22）4013

[info@uchinono-yakata.com](mailto:info@uchinono-yakata.com) ホームページはうちの館で検索